

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-08 グローバル 社会へのパ スポート	20130587034501	●グローバル 社会へのパス ポートII(企 業の国際展開 とその課題)	和	E	源島 福 己	1年,2年,3年,4年	後期	木 4	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-08 グローバル 社会へのパ スポート	20130587034901	●グローバル 社会へのパス ポートII(世 界人口の動向 と国際開発)	和	E	松村 真 樹	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-08 グローバル 社会へのパ スポート	20130587035301	●グローバル 社会へのパス ポートII(英 語で学ぶオ ランダと西 欧の文化)			山下 龍	1年,2年,3年,4年	前期	木 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-08 グローバル 社会へのパ スポート	20130587035701	●グローバル 社会へのパス ポートII(国 際援助と公 的部門の役 割)	和	E	加藤 誠 治	1年,2年,3年,4年	後期	金 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-08 グローバル 社会へのパ スポート	20130587036101	●グローバル 社会へのパス ポートII(異 文化接触と コミュニケーション)	和	E	高野 泰 邦	1年,2年,3年,4年	前期	金 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-08 グローバル 社会へのパ スポート	20130587036501	●グローバル 社会へのパス ポートII(途 上国支援と 国際保健)			松山 章 子	1年,2年,3年,4年	後期	木 3	～

[戻る](#)

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-08 グローバル社会へのパスポート**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木4																												
開講期間																															
必修選択	選択	単位数	2.0																												
時間割コード	20130587034501	科目番号	05870345																												
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートII(企業の国際展開とその課題)																														
編集担当教員	源島 福己																														
授業担当教員名(科目責任者)	源島 福己																														
授業担当教員名(オムニバス科目等)	源島 福己																														
科目分類	全学モジュールII科目																														
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																												
教室	[教養A棟]A-33																														
対象学生(クラス等)	2,3,4年生																														
担当教員Eメールアドレス	fgenjima@nagasaki-u.ac.jp																														
担当教員研究室	留学生センター2階 内線2238																														
担当教員TEL	095-819-2238																														
担当教員オフィスアワー	火曜日 1校時																														
授業のねらい	グローバル化に対応して変容する企業のビジネス内容や海外進出の実態や内容を知ること、グローバルな企業で活躍できる知識やマインドを早期段階から醸成する。																														
授業方法(学習指導法)	授業はパワーポイントやDVDを使った講義が中心であるが、必要に応じて外部講師等を招聘して行うこともある。また授業内容の理解を深めるために、適宜テーマを与え事前の予習を課しながら、学生にディスカッションや発表を求める。図書を指定する予定であるが、私用しない場合は講義資料を教員が準備し配布する。																														
授業到達目標	今後グローバルに活躍したいと願う学生が、本学での授業を体系的に学び行動する一助として、また将来の就職や職業選択により実践的な知識を以て臨むために、必要とされる基本的な企業知識やグローバル社会で必要とされる基本的なスキル等を理解する。																														
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>10月3日(木) 授業のオリエンテーション(授業の内容、進め方、成績評価方法等について説明)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10月10日(木) 日本企業の海外進出の歴史と背景</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10月17日(木) 業種別に見た国際化の現状とデータによるパフォーマンス分析</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10月24日(木) 日本の企業集団と国際化</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>10月31日(木) 貿易の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11月7日(木) 海外ビジネスとリスク要因</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>11月14日(木) 新卒採用と人材のグローバル化要請</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>11月21日(木) 日本企業の組織運営とキャリアパス</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>11月28日(木) 職場におけるダイバーシティの進展</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>12月5日(木) 企業のグローバル化と人材育成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>12月12日(木) 中小企業のグローバル化</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>12月19日(木) 企業文化</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>12月26日(木) 企業間競争と企業倫理</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	10月3日(木) 授業のオリエンテーション(授業の内容、進め方、成績評価方法等について説明)	2	10月10日(木) 日本企業の海外進出の歴史と背景	3	10月17日(木) 業種別に見た国際化の現状とデータによるパフォーマンス分析	4	10月24日(木) 日本の企業集団と国際化	5	10月31日(木) 貿易の基礎知識	6	11月7日(木) 海外ビジネスとリスク要因	7	11月14日(木) 新卒採用と人材のグローバル化要請	8	11月21日(木) 日本企業の組織運営とキャリアパス	9	11月28日(木) 職場におけるダイバーシティの進展	10	12月5日(木) 企業のグローバル化と人材育成	11	12月12日(木) 中小企業のグローバル化	12	12月19日(木) 企業文化	13	12月26日(木) 企業間競争と企業倫理
回	内容																														
1	10月3日(木) 授業のオリエンテーション(授業の内容、進め方、成績評価方法等について説明)																														
2	10月10日(木) 日本企業の海外進出の歴史と背景																														
3	10月17日(木) 業種別に見た国際化の現状とデータによるパフォーマンス分析																														
4	10月24日(木) 日本の企業集団と国際化																														
5	10月31日(木) 貿易の基礎知識																														
6	11月7日(木) 海外ビジネスとリスク要因																														
7	11月14日(木) 新卒採用と人材のグローバル化要請																														
8	11月21日(木) 日本企業の組織運営とキャリアパス																														
9	11月28日(木) 職場におけるダイバーシティの進展																														
10	12月5日(木) 企業のグローバル化と人材育成																														
11	12月12日(木) 中小企業のグローバル化																														
12	12月19日(木) 企業文化																														
13	12月26日(木) 企業間競争と企業倫理																														

	14	1月9日（木）グローバル人材マネジメント
	15	1月16日（木）授業の振り返りと授業評価
	16	
キーワード	企業のグローバル化、グローバル人材	
教科書・教材・参考書	使用する教科書については後日指定する予定であるが、適宜教員が授業中に資料を配布することもある。	
成績評価の方法・基準等	原則期末テスト等を行わない。成績評価は以下によって行う。 レポートの内容 60% 授業参加&プレゼンテーション 20% 出席 20%	
受講要件（履修条件）	英文資料を使用することもあるので、ある程度の英語の読解力を必要とする。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	本科目の受講を通して企業活動に関する興味・関心を深め、将来グローバルな人材として企業で活躍する上で必要な基本的なビジネス知識や心構えを習得し、今後の自己のキャリアを展望する。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-08 グローバル社会へのパスポート**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587034901	科目番号	05870349
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートII(世界人口の動向と国際開発)		
編集担当教員	松村 真樹		
授業担当教員名(科目責任者)	松村 真樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松村 真樹		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生(クラス等)	教育, 経済, 薬学, 水産		
担当教員Eメールアドレス	masaki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	留学生センター 2階		
担当教員TEL	095-819-2253		
担当教員オフィスアワー	木曜17:00~18:00, 又はメールによるアポイントメント		
授業のねらい	日本や欧州のみならず, アジア諸国においても急速な少子高齢化が進む昨今であるが, その一方で, 高い人口増加率が依然として続いている開発途上国もある。人口動態を見ることによって, 世界の多様性が見えてくる。同時に, 過剰都市化, 環境問題, 児童労働, 格差社会と貧困層, そして少子高齢化など, 様々な課題も浮き彫りになる。この授業では, 人口学的視点から国際社会の変化と多様性について理解を深める。		
授業方法(学習指導法)	講義と演習形式のグループワークによって, 人口学の基礎概念や人口統計・指標について学びながら, 実際の国や地域の人口動態を把握する方法を習得する。		
授業到達目標	1)死亡, 出生, 移動に関する人口データの意味を読み取ることができる。 2)人口転換論について, また先進国と途上国の人口転換の違いについて説明することができる。 3)人口動態に影響を与える要因について, 社会・経済・文化的背景に関連付けて説明することができる。		
授業内容	世界人口の動向を理解するために欠かせない, 人口転換, 人口構造, 出生率, 死亡率, 人口移動などの基本概念や指標について学ぶ。さらに, それらを使って世界人口の現状を説明する能力を養う。また, 変化する人口動態の背景にある社会・経済・文化的要因について考察する。		
	回	内容	
	1	人口を知ると何がわかるか?	
	2	さまざまな指標で見る世界人口の現状	
	3	人口構造の国際比較	
	4	人口転換論	
	5	死亡率低下の歴史的推移と地域格差	
	6	生命表の見方と平均寿命について	
	7	出生に関する指標と規定要因	
	8	出生率をめぐる先進国と途上国における諸問題	
	9	人口移動と都市化	
	10	国際人口移動と外国人労働者	

	11 少子高齢化
	12 人口増加と経済発展の関係について
	13 人口増加と環境・資源
	14 各国の人口政策
	15 まとめ
	16 期末試験
キーワード	Population, Development, Demographic Transition
教科書・教材・参考書	人口統計資料のコピーを配布します。 以下は入手が簡単な参考書です。 河野稠果 『人口学への招待—少子・高齢化はどこまで解明されたか』 (2007, 中公新書) 大泉啓一郎 『老いてゆくアジア—繁栄の構図が変わるとき』 (2007, 中公新書)
成績評価の方法・基準等	グループワーク (30%) クイズ (20%) 期末試験 (30%) カントリー・プロフィール・レポート (20%)
受講要件 (履修条件)	グループワークに積極的に参加する学生が望ましい。
本科目の位置づけ	モジュールII科目
学習・教育目標	人口統計で示される様々な数値を使って世界各国の現状や先進国と途上国の違いを説明するための Demographic Literacy を習得する。
備考 (URL)	
備考 (準備学習等)	外国のニュースを見たり, 英字雑誌・新聞を読むなど, 日ごろから海外事情に興味を持つようにしよう。



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-08 グローバル社会へのパスポート**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587035301	科目番号	05870353
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートII (英語で学ぶオランダと西欧の文化)		
編集担当教員	山下 龍		
授業担当教員名(科目責任者)	山下 龍		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山下 龍		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生 (クラス等)	経済学部・教育学部・水産学部・薬学部		
担当教員Eメールアドレス	info@ryuumon.com		
担当教員研究室	言語教育研究センター		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	講義の前後		
授業のねらい	日本とオランダとの交流が江戸初期から始まり、その交流が現在まで400年以上続いています。この講義ではオランダの文化と歴史を中心に、西欧の歴史的・文化的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の習得と文化理解を目的とします。現在の国際社会において公用語である英語で講義を提供します。		
授業方法 (学習指導法)	講義形式 この講義の為に作成した資料や視聴覚教材(Powerpoint)を利用して、世界史が得意ではない学生にも、より分かりやすく、オランダと西欧の文化と歴史を紹介します。		
授業到達目標	英語でオランダと西欧の歴史と文化、または、日蘭交流についての基本的な知識を習得します。		
	ローマ時代から現在までの歴史の出来事を説明しながら、オランダと西欧の発展を理解させます。オランダを知ることで、西欧の文化の発展も理解することができます。		
	回	内容	
	1	ローマ帝国時代 西欧でのキリスト教の布教	
	2	カール大帝とカロリング (フランケン) 帝国 十字軍 オランダ語文学の誕生	
	3	ホーランド州の発展 中世末期の危機 北ヨーロッパのハンザ貿易	
	4	スペインとポルトガル、大航海時代 エラスムスとルネサンス カール5世と神聖ローマ帝国	
	5	マルティン・ルターとプロテスタントの宗教革命 オラニエ公ウィレム1世とオランダの独立	
	6	ネーデルランデン7州連邦共和国 15・16世紀の美術	

授業内容	7	オランダ東インド会社の創立 日蘭交流、平戸・出島
	8	オランダの黄金時代 17世紀の美術
	9	奴隷制 啓蒙思想時代とフランス革命 ナポレオン時代
	10	オランダ王国 ベルギーの独立
	11	産業革命 年少労働 女性権利 印象派とフィンセント・ファン・ゴッホ
	12	第一次世界大戦 1930年代の世界恐慌 De Stijlの美術
	13	第二次世界大戦 冷戦時代 20世紀のオランダ
	14	現在のオランダ 宗教と伝統・祭り・自転車の王国・など
	15	現在のオランダ 教育とスポーツ・政治・食べ物とお菓子・など 講義の総括
	16	定期試験
キーワード	英語・歴史・国際理解・比較文化・日蘭交流・蘭学・文化	
教科書・教材・参考書	教材・プリント教材 毎回配布します	
成績評価の方法・基準等	成績評価は、定期試験50%、出席・授業態度40%、英語でのレポート（発表）10%	
受講要件（履修条件）	全回出席が原則	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-08 グローバル社会へのパスポート**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587035701	科目番号	05870357
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートII (国際援助と公的部門の役割)		
編集担当教員	加藤 誠治		
授業担当教員名(科目責任者)	加藤 誠治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	加藤 誠治		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生 (クラス等)	全学年		
担当教員Eメールアドレス	s-kato@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	国際連携研究戦略本部・国際健康開発研究科		
担当教員TEL	095-819-7895		
担当教員オフィスアワー	24時間		
授業のねらい	第二次世界大戦後の復興支援からスタートした国際援助について、これまでの世界的潮流やアプローチの変遷と2000年以降の国際協調の方策を踏まえ、日本政府による国際開発協力の役割と現状を理解し、今後の方向を考えることを目的とします。		
授業方法 (学習指導法)	講義		
授業到達目標	国や国際機関等の公的部門が主体となるグローバル活動の課題を実践的に学ぶ。		
授業内容	我が国現代史の教育課程ではほとんど取り上げられないが、現実の国際社会では常に重要なテーマとなっている国際援助、開発、紛争、貧困などのテーマについて、その歴史的、理論的、思想的な展開を外観する。 その上で、そうしたテーマに関して活動するアクターの現実、特徴を学ぶ。 これらを通じて、戦後史及びグローバル社会の重要な一断面である国際援助に関する知識を習得する。		
	回	内容	
	1	戦後の国際経済復興の仕組みの成立過程とその概要	
	2	戦後日本が受けた国際援助	
	3	戦後復興と日本の国際援助の黎明期（戦後賠償）	
	4	日本人の海外移住と国際協力～その文明史観上の意義	
	5	援助の潮流1950-1960～初期の開発援助理論とアプローチ	
	6	援助の潮流1970年代～Basic Human Needs	
	7	援助の潮流1980年代～世界の援助の潮流と日本のODA倍増計画	
	8	国際機関、先進国援助機関～その活動の歴史・概要と特徴	
	9	日本のODAの概観～その仕組みと実態、アクター	
	10	冷戦終了後の世界～地域紛争と人間の安全保障、国連の役割	
	11	1990年代の世界の国際援助と日本のODA～援助協調の時代へ	
	12	2000年前後（その一）～"MDGs"	
13	2000年前後（その二）～"貧困削減"		

	14	2000年前後（その三）～絶対的貧困&相対的貧困、貧困とは？
	15	現在の国際援助～公的援助と民間投資・貿易
	16	これからの国際援助と世界の趨勢
キーワード	南北問題、冷戦、開発経済、経済成長、貧困、紛争、人間の安全保障、ODA、援助機関、NGOs、MDGs	
教科書・教材・参考書	教科書はなし。適宜、参考書を紹介する。	
成績評価の方法・基準等	履修後の課すレポート	
受講要件（履修条件）	学生であること。	
本科目の位置づけ	グローバル社会へのパスポートのOne of themを提供する。	
学習・教育目標	授業到達目標と同様	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-08 グローバル社会へのパスポート**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587036101	科目番号	05870361
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートII(異文化接触とコミュニケーション)		
編集担当教員	高野 泰邦		
授業担当教員名(科目責任者)	高野 泰邦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高野 泰邦		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生(クラス等)	教育・経済・薬学・水産学部の2年生		
担当教員Eメールアドレス	ytakano@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	留学生センター		
担当教員TEL	2241		
担当教員オフィスアワー	火曜日：10:30～12:00		
授業のねらい	異文化接触の際に使用される日本語について科学的に検証するとともに、世界の主要な言語の中における日本語の位置、統語構造と機能、普遍性等について理解を深め、コミュニケーションに必要とされる国際的な素養を涵養する。		
授業方法(学習指導法)	事前配布資料について概説・分析・討論・質疑応答等の教室活動を通して、受講生の好奇心を刺激し、日本語の統語構造と機能について理解を深めさせる。なお、2つの宿題と1つのレポートを課し、受講生が自主的に日本語の統語構造と機能について理解を深めようとする態度を涵養する。		
授業到達目標	現代日本語の統語構造と機能について理解を深めることにより、①客観的な観察ができる。②客観的な分析ができる。③外国語としての日本語の統語構造と機能について科学的に説明できる。		
授業内容	回	内容	
	1	4月5日 オリエンテーション/言語学とは(1)	
	2	4月12日 言語学とは(2)	
	3	4月19日 日本語学とは(1)	
	4	4月26日 日本語学とは(2)	
	5	5月10日 日本語の統語構造と機能：述語の成り立ち(1)	
	6	5月17日 日本語の統語構造と機能：述語の成り立ち(2)	
	7	5月24日 日本語の統語構造と機能：述語の成り立ち(3) 宿題1	
	8	5月31日 外国語としての日本語(1)：表現形式のいろいろ	
	9	6月7日 外国語としての日本語(2)：語順と格助詞	
	10	6月14日 外国語としての日本語(3)：「て形」の構文	
	11	6月21日 外国語としての日本語(4)：「たら形」、「ば形」、そして「と」構文 宿題2	
	12	6月28日 外国語としての日本語(5)：尊敬語と謙譲語	
13	7月5日 助詞「が」と「は」の統語構造上の役割とその機能(1)		

	14	7月12日 助詞「が」と「は」の統語構造上の役割とその機能（2） レポート
	15	7月19日 助詞「が」と「は」の統語構造上の役割とその機能（3） 総まとめ、学生による授業 評価
	16	
キーワード	言語学、日本語学、日本語の統語構造、述語の成り立ち、外国語としての日本語、助詞「が」と「は」	
教科書・教材・参考書	新基礎日本語文法 A Dichotomous Approach to Basic Japanese Grammar	
成績評価の方法・基準等	授業への参加度（30%）、予習[講読]（10%）、課題[宿題]の質（30%）、レポートの質（30%） を総合的に評価する。	
受講要件（履修条件）	教育学部、経済学部、薬学部、水産学部 に在籍の2年生。	
本科目の位置づけ	全学モジュール科目Ⅱ	
学習・教育目標	各学習項目については、100%理解するという態度で授業に臨むことを教育目標とする。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-08 グローバル社会へのパスポート**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587036501	科目番号	05870365
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートII(途上国支援と国際保健)		
編集担当教員	松山 章子		
授業担当教員名(科目責任者)	松山 章子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松山 章子		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生(クラス等)	教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス	akikomata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	国際健康研究科(坂本キャンパス、原研二号館二階)		
担当教員TEL	095-819-7893		
担当教員オフィスアワー	随時(メールで事前に予約してください)		
授業のねらい	地球規模の課題、特に途上国の健康問題について、社会、経済、文化的背景を踏まえて現状を理解し、地球市民としてどのような貢献ができるか多角的視点から考えるための基礎知識を身につけることを目指します。グローバル社会の中における共生をテーマに、地球規模健康課題を解決するため、国連、政府開発援助組織、NGO、民間企業など多様な組織が取り組んでいます。学生個々人が現在そして将来、組織の一員として、あるいは一市民としてどのように協働していける可能性があるかを、主体的に考える機会を提供します。		
授業方法(学習指導法)	講義を中心としますが、基礎的知識の習得のプロセスで、自ら批判的眼を養いつつ、現実的課題克服のための対策を立案する能力を涵養するため、グループでのディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等を取り入れます。		
授業到達目標	国際社会における地球規模健康課題の現状を理解し、課題克服に貢献するためのプロジェクトの立案を経験する。		
授業内容	回	内容	
	1	国際開発とミレニアム開発目標：貧困とは何か？	
	2	生存のための人間開発：飢餓と栄養不良	
	3	生存のための人間開発：子供の健康	
	4	生存のための人間開発：女性の健康	
	5	生存のための人間開発：HIV/エイズ、結核、マラリア	
	6	生存のための人間開発：水と衛生	
	7	ディスカッションおよびグループワーク	
	8	成長と発達のための人間開発：教育	
	9	成長と発達のための人間開発：ジェンダー	
	10	国際開発のパートナー—援助機関(多国間機関、二国間機関、NGOなど)	
	11	支援から協働へ：マイクロファイナンス	
	12	支援から共同へ：企業の社会貢献と社会的責任	

	13	ディスカッションおよびグループワーク
	14	グループ・ワーク発表①
	15	グループ・ワーク発表②
	16	まとめ：地球社会の一員としてなにができるか
キーワード	地球規模健康課題、国際保健、支援、援助、共生、協働	
教科書・教材・参考書	必要な資料を適宜配布	
成績評価の方法・基準等	グループ・ディスカッションにおける参加（貢献度）、最終発表（その纏めとしての）レポート	
受講要件（履修条件）	モジュール「グローバル社会へのパスポート」を選択した学生	
本科目の位置づけ	モジュール「グローバル社会へのパスポート」において、国際社会を理解するため、地球規模健康課題の現状の基礎知識を身につけ、その対策活動に関して主体的に考える力を涵養する。	
学習・教育目標	当該分野における基礎知識の習得とともに、知識を土台にして主体的に解決方法を考える能力をみにつける	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		

